

就労支援を通じてみた、「若者」(15~34歳)と「労働」のあいだ

～働く者にとっての、「労働」とは～

1. 動機

「ひきこもり」とその「親和群」に関わって
昨年のFGD(精神障害者の就労に関する調査)
当事者の働くことへの期待と強い思い
…一方で、「労働から撤退」する若者

2. 各種調査とその動向

内閣府政策統括官(共生社会政策担当) 引きこもり推計
『若者の意識に関する調査』(ひきこもりに関する実態調査) 2010年7月
15歳以上~39歳、約70万人、親和群155万
「職場になじめなかった」「病気」「就職活動」が2割超え

大学生の場合

厚生労働省2008年末調査 100人に1人
全国の大学生約280万:うち不登校は2.9%(8万1000)、うち2万8000人がひきこもり可能性

大阪府

ふるさと雇用再生基金事業 社会起業家活用型ニート対策プロジェクト
大学生ひきこもりアプローチ事業(大学連携型ニート予防事業)

マルクス

労使の階級闘争は、労働日の限界をめぐる闘争

労働は費用か

3. 社会変化

業構造の転換

60年代=第二次産業の時代(製造業の増加) → 70年代前半=第三次産業の時代
学校はそもそも、第二次産業化(工業化)のためのシステム

60年代…学校も社会も第二次産業志向(相互にはじかれても吸収し合えた)

70年代…学校と社会の間に矛盾 第三次産業社会に、集団主義はなじまない

就労支援の必要な若者と、世帯所得との相関

NEET(就労構造基本調査) / 高校中退者の調査

単なる貧困対策だけでは解決されない、問題の質的転換

4. 方法

文献調査(一次資料の分析)
就労支援団体の把握と聞き取り
大学生を対象としたアンケート?